

7 / 7

実登3224427号
株式会社CCP

2019/12/19

実願2019-3939

2019/09/27

登録

3項 (9頁)

F03D 3/06 (2006.01)

3H178 AA13 AA40 AA43 AA56 CC22 BB42 CC03 CC05 BB31

垂直型回転体

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡単な構造でありながら風を受ける帆の面積を簡単に大きくでき、微風でも一定量の風力を受ける事ができ、また、風を受けたときの帆部材の振動を抑える垂直型回転体を提供する。

【解決手段】帆部材14は、図面手前方向から風を受けると、開口部S1を閉じる方向に回転してストップ111に当接部143が当接する。これにより主軸フレーム121、131および主軸シャフト11に回転力を与え、垂直型回転体10全体が回転する。帆部材14の帆羽142は、ほぼ三角形を有しているため、開口部S1の大部分を塞ぐことができ、微風でも一定量の風力を受ける事ができる。当接部143がストップ111と一点で当接する形状なので、四角形状のものと比較して風を受けたときの帆部材14の振動を抑えることができる。

【選択図】図1

【実用新案登録請求の範囲】【請求項1】 流体の力を受けて回転する垂直型回転体において、軸心がほぼ鉛直に設けられる回転自在な主軸シャフトと、一端部が前記主軸シャフトの上部に設けられ、ほぼ水平面に沿って回転自在に設けられる第1の主軸フレームと、一端部が前記主軸シャフトの前記第1の主軸フレームより下方に設けられ、前記第1の主軸フレームと対向しかつ一体に回転自在に設けられる第2の主軸フレームと、前記主軸シャフトの一部に設けられるストップと、前記流体の力を受けることにより、前記第1の主軸フレームの他端部に設けられる第1の支持部と前記第2の主軸フレームの他端部に設けられる第2の支持部とを結ぶ軸心周りに回転可能に設けられ、かつ前記ストップと当接できる位置に頂点を持つ形状を有する帆部材と、前記頂点に設けられ、前記主軸シャフトおよび前記主軸フレームで形成される開口部の一部を前記帆部材が所定方向から塞いだときに前記ストップに当接することで前記帆部材の回転を止める当接部と、を有することを特徴とする垂直型回転体。

【技術分野】【0001】 本考案は、風や水などの流体の力を受けて回転する垂直型回転体に関するものである。

